

1) 全国の河川及びダム湖における生物の確認種数の状況

日本の国土面積の約0.7%を調査対象とした河川水辺の国勢調査において、多くの野生生物を確認しました。

河川は、野生生物の重要な生息環境であることがわかります。

河川で「日本野生生物目録」掲載種の約8割の魚類を確認。

河川で「日本産鳥類目録」掲載種の約6割の鳥類を確認。

ダム湖で「日本野生生物目録」掲載種の約7割の両生類を確認。

今回、2巡目調査となる平成8年度から平成12年度（一部は平成13年度）における現地調査結果を用いて、日本全国の一級水系109水系123河川および88ダムにおいて確認された動植物の種数を下表にとりまとめました。

魚類調査において、「日本産野生生物目録」掲載種である汽水魚・淡水魚の確認状況については、河川では85%(169種)、ダム湖では78%(156種)の種が確認されています。また、河川では鳥類の約57%、ダム湖では両生類の約66%の種が確認されています。

このように、主な河川水辺の国勢調査の対象となる一級水系123河川の調査対象面積約2500km²は、国土面積378千km²の約0.7%にすぎませんが、日本に生息するとされる「日本野生生物目録」等の掲載種の多くの生物種が確認されています。このことから河川は、野生生物の生息環境として重要なことがわかります。

表 一級水系109水系および全国88ダムにおける動植物の確認種数

	調査項目	確認種数	「日本産野生生物目録」等掲載種数	確認率 / ×100
河川	魚類(淡水魚・汽水魚)	339(169)	200	85%
	植物	約3,200	8,118	39%
	鳥類	321	568	57%
	両生類	26	59	44%
	爬虫類	16	87	18%
	哺乳類	65	188	35%
	陸上昆虫類等	約9,500	33,220	29%
ダム	魚類	156	200	78%
	植物	約3,700	8,118	46%
	鳥類	240	568	42%
	両生類	39	59	66%
	爬虫類	33	87	38%
	哺乳類	77	188	41%
	陸上昆虫類等	約9,900	33,220	30%

注1) 植物と鳥類を除く各調査項目は、環境庁「日本野生生物目録」の種数を掲載。

注2) 植物は環境庁「植物目録1987」の維管束植物の種数を掲載。

注3) 鳥類は「日本産鳥類目録改訂第6版」の種数を掲載。

注4) 魚類の「日本野生生物目録」の200種は淡水魚、汽水魚が対象。河川での国勢調査結果では海水魚を含む。(169)はそのうち「日本野生生物目録」に記載されている淡水魚、汽水魚の種数を示す。

現地調査確認種数の日本産野生生物目録等の掲載種数に占める割合

